

## 令和 8 年度 林業試験研究推進計画書

1 課題名	(大項目)	中山間対策 (特用林産の振興)		
	(小項目)			
	(課題名)	イタドリの品種選抜に関する研究		
2 研究期間	令和 3～8年度	3 担当者	森林経営課 黒岩	
4 研究費 (千円)	令和 3年度	962 ((国)	(一)	962 (財・諸)
	令和 4年度	875 ((国)	(一)	875 (財・諸)
	令和 5年度	869 ((国)	(一)	869 (財・諸)
	令和 6年度	982 ((国)	(一)	982 (財・諸)
	令和 7年度	1,011 ((国)	(一)	1,011 (財・諸)
	令和 8年度	1,306 ((国)	(一)	1,306 (財・諸)
	計	6,005 ((国)	(一)	6,005 (財・諸)

### 5 背景と目的

イタドリは高知特有の食文化として知られ、中山間地域の換金作物として有望である。また、地産外商の取り組みによって県外への販売拡大が期待されている。高知県では現在、既存の優良系統を普及させ増産を進めているところであるが、反収を上げるために多収性系統の栽培が求められている。一方、最近、高知県立大学によって、イタドリの葉にネオクロロゲンやルチンなど、人の健康に有益なポリフェノール類が多く含まれることが解明され、イタドリ葉茶の販売拡大への期待が高まっており、ポリフェノール類を多く含む系統の選抜や葉の採取方法の開発が求められている。このように多収性のイタドリの選抜とイタドリ葉の生産拡大を目的とする本研究は、特用林産を通じた中山間地域の所得向上と地産外商の推進に寄与するものと考えられる。

### 6 到達目標

食品加工に向けた規格化と生産性の向上に対応できる優良系統の選抜および生産方法の開発

### 7 要望課題との関連

要望提出機関名	要望課題名
木材産業振興課	「市場性の高いイタドリの品種選抜に関する研究」
高知県食品工業団地事業協同組合 (株式会社アミノエース)	「イタドリ葉茶用系統の選抜」

### 8 既往の研究成果の概要

#### 1) イタドリ優良系統の選抜と増殖

皮剥後の茎 (食用部位) の割合が多い候補系統32株から「東牟婁3」を選抜し普及。和歌山県林業試験場特用林産部 杉本小夜令和元年 関西林試協特産部会研究発表

#### 2) 優良系統の探査、収集及び選定と生理生態の解明 B. イタドリの栽培技術の確立

県内各地より収集した 33 株の中から、有望系統 3 系統を選抜  
高知県農業技術センター山間試験場、山地林産科 平成 3～8 年

### 9 研究結果の概要

#### 1) 令和3年度

国有林を中心に61地域152個体を採集し圃場に植栽。検討会で選抜目標を①皮の剥ぎやすさ、②15mm以上の茎の本数、③早晩性、④茎の中身の色が鮮緑色であることとした。152個体と対照系統の高知県の「鏡1号」と和歌山県の「東牟婁3」を挿し木し、試験供用株を準備した。

#### 2) 令和4年度

生産者の代表らで38系統を一次選抜した。一次選抜系統と対照系統 2 系統の計40系統の挿し木苗を鉢上げして育成し、高知県の栽培指針に準拠して 1 系統につき10個体の苗を植え付けた。

#### 3) 令和5年度

3月上旬から地上部に芽が出た日を記録して早晩性を調査し、系統によって1ヶ月程度の差があることが分かった。また、育成中にコガタリハムシや穿孔性害虫が発生した。10月中旬に葉と花序を除いた茎を乾燥させ乾燥重量を計測した。

4) 令和6年度

3月～4月に系統毎に地上部に出た若茎の秀品（根元径15mm、草丈40cm以上）の茎数と形状を計測した。和歌山県の「東牟婁3」を含め秀品が10本以上の系統は7系統あった。令和3年に137系統の葉を高知県立大学が分析した結果によりポリフェノール類の含有量が異なることが分かり、含有量の高い系統を保存した。ポリフェノール類の季節変化を調査、県立大で分析した結果、ルチンは9月に上昇し、ネオクロロゲン酸は低下していた。

5) 令和7年度

3月～4月に秀品を収穫し、新茎の重量、本数、皮の剥ぎやすさ、茎の厚み等を計測し、二次選抜（最終）として一次選抜した試験供用系統38系統の中から3系統を選抜した。生産者への提供を目的として選抜系統のうち1系統を6月～7月に挿し木して、1,200株の苗を育成した。効率的な葉の採取方法を検討するため功程調査を実施し、県立大の協力により、葉だけではなく、葉、花（果実）、細茎を含む枝先を採取する方法が、より効率的で有効成分量も減少しないことを確認した。

10 研究年次計画

試 験 計 画	
試 験 項 目・試 験 内 容	試 験 年 度
1. 選抜目標の設定	R3
1) 選抜目標の設定 検討会を開催し選抜目標を決定する。	
2. 優良系統候補の収集	R3
1) 優良系統候補の収集 栽培保存圃場を整備し、四国森林管理局等の協力をへて選抜目標に適合した系統を県内各地から収集保存する。	
3. 試験用個体の増殖・育成	
1) 収集した親株から挿し木により試験供用苗を増殖する。	
4. 一次選抜	R4
1) 選抜目標に照合して評価し一次選抜する。	
2) 一次選抜系統の試験供用苗を均質な畑に植え付け育成する。	R5
5. 計測と最終選抜	
1) 苗を3年間育成し、計測項目を設定して計測する。	R5～R7
2) 総合的に評価して最終的に優良系統を選抜し増殖する。	R7
6. 葉茶用イタドリの選抜と採取方法の開発	R6～R7
1) 高知県立大学の成分分析により、収集したイタドリから葉のポリフェノール類含量の高い系統を選抜し保存する。	R6
2) 採取時期による葉のポリフェノール類含量の変化の調査	R6
3) 効率的な葉の採取方法（採取部位によるポリフェノール含量の違い）	R7
4) 生育環境（光環境）違いが葉のポリフェノール含量に及ぼす影響	R8

11 当年度研究実施計画

- 1) 生育環境（光環境）の異なる環境に設置したイタドリの葉を採取し、光環境が葉のポリフェノール含量に及ぼす影響を明らかにする。
- 2) 選抜系統3系統のうち残り2系統を増殖し、生産者への提供による実証試験の準備をする。

12 協力・共同機関 協力：高知県立大学健康栄養学部

13 産業振興計画との関連

地域A P：イタドリの増産による中山間地域の振興（高知市地域）

\* 中山間地域再興ビジョン等 関連